



建築人

5

2015



大阪ホンマモン

三重県津市にある国立大学の三重大学の構内にアントニン・レーモンド（一八八八〜一九七六年）の設計した戦後初期の木造建築が今も残っている、そう伝え聞いたのは、二〇一〇年春に開催された展覧会「札幌ミカエル教会とアントニン・レーモンド展―日本で発見した木造モダニズム―」（会場・ギャラリイエークワッド）の企画に協力した際のことだった。それが、設計者の名前に因んでレーモンドホールと呼ばれる旧・三重県立大学付属図書館である。

未だ日本が占領下にあった一九五一年に竣工した、長さ十四間、奥行五間、延床面積約二三〇㎡の今でこそ小さな木造平屋の建物が展覧会で紹介されたこと自体、レーモンド建築の新発見とも言えるべき歴史的事件だった。それにしても、どのような経緯から三重県の大学図書館を遠く離れた東京のレーモンドが設計し、なぜそれがわざわざ国立の大学へ移築されて使われてきたのだろうか。そこで今回は、その履歴を追うことで、レーモンドホールが今そこにあることの意味を考えてみたいと思う。

幸いにも、この建物は、三重大学がその価値を早くから認めていたこともあって、二〇〇二年には国の登録有形文化財に登録されていた。そして、二〇一〇年の展覧会がその建築的価値に注目を集める転機になったのだらう。二〇一三年度には耐震改修と活用のための改修工事が施され、二〇一四年度からは広く展示や講演会に利用される多目的ホールとしての活用が始まった。その間、保存改修工事の指導・監修を担った三重大学教授の菅原洋一氏が経緯をまとめ、レーモンド研究者の三沢浩氏が寄稿した冊子として、『登録有形文化財三重大学レーモンドホール』（編集発行・三重大学博連携

推進室、二〇一四年三月）がある。それらを元に、レーモンドの歩みと建物の履歴を紹介すると次のようにまとめられる。

一九一九年十二月二日、東京の日比谷に建設される帝国ホテル（一九二三年竣工）の設計助手として、フランク・ロイド・ライト（一八六七〜一九五九年）と共に初来日したレーモンドは、関東大震災直前の江戸情緒を残す古い木造の町並みに接して、自らが求めていたモダニズム建築の原理がごく普通の民家に体现されていることに感

となったのが一九五一年に竣工する東京のリーダーズダイジェスト東京支社である。そして、その現場事務所と同じ設計思想で設計されていたのがこの図書館だった。

レーモンドへ設計が依頼されたきっかけは、進駐軍の軍医から多数の医学書を寄付された三重県立大学医学部の妹尾佐知丸教授が、県に図書館建設を働きかけ、その際、旧制第三高等学校の同級生だったレーモンド事務所の構造スタッフの岡本剛に相談したことに始まるという（妹尾佐知丸「三重

唯一移築された建物がこの図書館だった。また、移築後は、一九九〇年まで、三重大学水産学部の食堂として同窓会や謝恩会にも幅広く利用され、在校生のみならず、多くの卒業生や教職員にも親しまれてきた。

それにしても不思議なのは、一九六九年に国立三重大学に統合されるまでの間は、大学に建築学科が存在せず、おそらく、設計者レーモンドのこともほとんど知られていなかったと思われること、にもかかわらず、この建物が大切に維持されてきたことだ。その理由の一端が、先の展覧会に続いて、二〇一一年十二月四日に三重大学で催されたシンポジウム、「アントニン・レーモンドと木造モダニズム」で明かされた。

会場から発言した三重県立大学医学部の卒業生は、一九六九年の統合にあたって、どうしても図書館だけは移築して残してほしい、と同窓生と請願したのだという。この時、偶然にも、シンポジウム講師として三沢浩氏と共にその場に居合わせた筆者は、その発言を聞いて、レーモンドの建築が持つ簡素で力強い木造の骨組みの質感と内外が一体となる心地良い空間がそうさせたに違いないと思わずにいられなかった。それは、一九五三年に、「私は日本から沢

記憶の建築

松隈 洋

三重大学レーモンドホール 1951年
建築の持つ力を信じる



赤い鉄板葺き切妻屋根の簡素な外観



丸太材の柱と架構が露出する室内

動する。ほどなくしてライトの下から独立したレーモンドは、日本の木造の伝統と職人たちの仕事から精力的に学び、独自の木造モダニズム建築を模索していく。

しかし、太平洋戦争目前の日米関係の悪化から、レーモンドは、一九三七年にアメリカへ一時帰国し、フィラデルフィア郊外のニューホープのクエーカー教徒が切り拓いた農場を買い取り、アトリエを構える。こうして迎えた戦後は、一九四八年に再来日し、設計活動を再開させる。その出発点

県立医専の大学昇格から国立大学移管への歩みを助けた図書館設立の思い出「『三医会会報第十六号』（二〇〇三年）。こうして、県との設計契約を結んだレーモンド夫妻は、伊勢神宮の参詣を兼ねて敷地調査も行

い、一九五〇年十二月に設計を終え、大成建設の施工により、翌一九五一年八月十五日に、三重県立大学附属図書館は竣工する。その後、一九六九年に三重県立大学は国立三重大学に統合されることになる。この時、移転に際して取り壊された校舎の中で

生活の芸術であった」（レーモンド著、三沢浩訳『私と日本建築』鹿島出版会一九六七）と記したように、レーモンドが日本から教えられたことでもあったのだと思う。時代を超えて人々に愛されてきたレーモンドホールは、建築の持つ力を信じることの大切さを現代の私たちに伝えている。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授、博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

INFORMATION については本会ホームページにも掲載されています。本会ホームページのWEB 申込システムから簡単に申込みができます。【詳細は大阪府建築士会ホームページ】http://www.aba-osakafu.or.jp/ まで

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

本会における既存建築物耐震診断等評価業務

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の専門家で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

公立学校施設や沿道建築物などの耐震不適格建築物について、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。スピーディな審査を手掛けますのでどうぞご利用ください。

（業務内容）
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画案の審査、評価等
（対象建築物）
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。
（会員特典）
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

平成27年度建築士試験案内

■一級建築士試験
◇受験申込書の配布
期間 4月1日(水)～5月11日(月)
(土・日、祝日は除く。但し5/9(土)、5/10(日)は配布します。)
時間 9:30～17:00
場所 大阪府建築士会事務局
◇受験申込書の受付
期間 5月7日(木)～5月11日(月)
(土、日も受付ます。)
時間 10:00～17:00
場所 大阪府建築士会事務局
※インターネット又は郵送による受験申込は、建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください。
http://www.jaiec.or.jp/

大阪府知事指定講習
平成27年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法講習会》
5/14・9/8・12/8・2/9
CPD5単位
講習了する必要があります。)
日程 ①5月14日(木) ②9月8日(火)
③12月8日(火)
④平成28年2月9日(火)
時間 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

新入会員歓迎企画
ちょっと知りたい建築セミナー造園編
「造園設計事務所の庭づくりの手法・デザインを学ぶ」
5/16 CPD3単位(予定)

大阪府主催第4回みどりのまちづくり賞を受賞した(株)荒木造園設計の庭づくりの手法を学びます。創設者で造園家の荒木芳邦氏が手掛けた当時のままの寺院の庭や、住宅の小さな庭、そして、現社長宅の庭を訪れ造園工事の過程を見学し、最後に受賞作であるカフェ「GULIGULI」の庭でお話を伺います。

日時 5月16日(土) 9:45～12:30
集合 阪急池田駅(受付9:15～)
講師 (株)荒木造園設計次長 横村吉高
定員 50名(申込先着順、但し、入会半年以内の方優先)
参加費 会員1,500円 会員外2,500円

昨年、修理工事が竣工し、平安貴族が眺めた色彩を蘇えらせた国宝平等院鳳凰堂を中心に、平等院の敷地内に点在する仏堂や宝物を収めた鳳翔館、史跡などをじっくりと見学します。
渋い赤色が再現された鳳凰堂の外観と鳳翔館に再現された極彩色の内陣の様子を見て、極楽浄土を表現した平安人が持っている極上のセンスを感じて載きます。

日時 5月21日(木) 14:00集合
14:30～16:30見学
集合場所 京阪電車 宇治駅改札口前
参加費 会員1,500円 会員外2,000円
(境内入場料、ペットボトル付)
定員 50名(申込み先着順)
懇親会を現在企画中です！乞うご期待!!

平成27年度定時総会、式典・表彰式、記念講演会、懇親会
式席の正会員は必ず委任状を送付下さい
5/28

平成27年度定時総会を下記の要領で開催いたしますので、ご出席賜りますようお願い申し上げます。本総会が成立するためには、総正会員の1/3以上のご出席(委任を含む)が必要となります。正会員様をご欠席の際は、出欠票の委任状にご署名いただいで必ず本会にご返送ください。出欠票、議案書(正会員のみ)は本号に同封しております。準会員・特別会員・賛助会員様は、総会の議決権はございませんが、記念講演会、式典・表彰式、懇親会にふるってご参加下さい。

日時 5月28日(木)
会場 ホテル大阪ベイタワー4階
大阪市港区弁天1-2-1(ORC200内)
最寄駅 JR・地下鉄「弁天町」下車
スケジュール
定時総会 14:30～15:30
式典・表彰式 15:45～16:35
・来賓祝辞拝受
・第7回建築人賞表彰
・名誉会員称号授与・永年会員表彰

大阪府知事指定講習
建築士のための設備図の見方 基本2
5/21 CPD3単位
記念講演会 16:50～17:50
・講師 横文彦
(株横総合計画事務所代表取締役)
・テーマ 「未来へのメッセージ」
懇親会 18:00～19:30
懇親会会費 6,000円 要事前申込
展示 第7回建築人賞受賞作品パネル展示

本講習会は全2回のシリーズで行なうもので、「モデル設備図面」を使って図面構成や各設備図の凡例及び内容を理解し、最終的には図面が読めるようになっていただくことを目標としています。また、簡単な設備設計の手法や最近の設備動向も併せて解説させていただきます。
第2回の今回は、「電気設備」と「防災防犯設備」について学ぶ講習会です。

日時 5月21日(木) 13:25～16:40
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車
内容 設備図の見方③「電気設備」
設備図の見方④「防災防犯設備」

定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 会員4,000円 一般6,000円
(テキスト代含)

宇治平等院見学会

5/21 CPD2単位(予定)

(一社) 大阪府建築士事務所協会
(公社) 日本建築家協会近畿支部
(一社) 日本建築協会

日時 5月29日(金) 11:00～16:10
会場 ドーンセンター7階ホール
最寄駅 地下鉄「天満橋」下車
内容 改正建築基準法及び関係政令等に関する解説、建築士法改正の経緯と意義、改正内容、改正建築士法による設計受託契約等のポイント
定員 500名(定員に達し次第締切)
受講料 会員6,000円 一般8,000円
(テキスト代含)

「中山寺五重塔再建工事」建築技術講習会

宝塚市の中山寺において再建される五重塔についての特集です。計画から設計および監理を担当する設計事務所の方より、五重塔再建までの中山寺の歴史や、構造計画、設計監理について詳しく解説していただきます。また、来年の夏ごろには工事見学会も開催する予定ですので、あわせてご参加ください。

日時 6月2日(火) 13:25～16:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目駅」下車
内容 五重塔再建までの中山寺の歴史
五重塔の構造計画について
五重塔の設計監理について
定員 150名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,500円 一般5,500円
(テキスト代含)

「中之島フェスティバルタワー」建築技術講習会
6/2 CPD3単位
大阪府広域緊急交道路沿道建築物耐震化促進事業における「耐震診断を行える者」の要件について、大阪府の説明会を行います。
日時 6月18日(木) 13:30～17:30
会場 中之島フェスティバルタワー26階会議室
最寄駅 地下鉄「肥後橋駅」下車
内容 中之島フェスティバルタワーにおける建築計画、構造計画、設備計画、施工計画
定員 140名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,500円 一般5,500円
学生1,000円(テキスト代含)

「建築家と建築士―法と住宅をめぐる百年」講演会
安心な住まいとまちをささえる「建築家と建築士」の役割とは
6/13 CPD2単位

2014年度日本建築学会著作賞を受賞した速水清孝氏の著作「建築家と建築士―法と

住宅をめぐる百年」の講演と共催団体の建築家・建築士によるディスカッションを行います。
共催 NPO法人西山卯三記念すまいまちづくり文庫、(公社)大阪府建築士会、(公社)日本建築家協会近畿支部、(一社)日本建築協会、(一社)大阪府建築士事務所協会
講師 速水清孝(日本大学工学部教授)
日時 6月13日(土) 15:00～17:00
会場 梅田スカイビルタワーウエスト36階
大阪市北区大淀中1-1
JR「大阪」、阪急・地下鉄「梅田」下車
参加費 無料
定員 100名(要申込、先着順)
問合せ・申込 (公社)日本建築家協会近畿支部
Tel.06-6229-3371

大阪府知事指定講習
改正建築基準法及び改正建築士法の解説講習会
5/29 CPD4単位

昨年、建築基準法及び建築士法の改正が公布され、本年6月1日より改正建築基準法、6月25日より改正建築士法が施行されます。本講習会は大阪府住宅まちづくり部の担当官を講師としてお招きし、今回の法改正の内容や背景について詳細に解説していただきます。建築関係業務に携われている方におかれましては、ぜひ本講習会を受講され日頃の業務に活かしていただくよう企画いたします。

本講習会は、地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程 ①6月17日(水)②8月19日(水)③10月21日(水)④12月16日(水)⑤平成28年2月17日(水)
時間 13:20～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 無料
テキスト代 1,500円(被災建築物応急危険度判定マニュアル)

申込受付 一般財団法人大阪建築防災センター
※大阪建築防災センターのホームページ
http://www.okbc.or.jp/

本会への催し参加問合せ・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

第13回「関西建築家大賞」募集
(公社)日本建築家協会(JIA)近畿支部では近畿支部地域で活躍する会員建築家に対し、そのすぐれた建築活動を顕彰する関西建築家大賞の制度を設置しています。本賞は、過去10年間に実現もしくは提示された2つの作品を対象とし、唯一人の審査建築家の価値観によって一人の建築家を選考するものです。
ただいま第13回の応募を受け付けています。
応募期間 募集中～5月29日(金)
「当日消印有効」
審査建築家 横河 健
詳細はHPをご覧ください。
問合せ (公社)日本建築家協会近畿支部
Tel.06-6229-3371
http://www.jia.or.jp/kinki

第13回村野藤吾建築設計図展
一村野藤吾の住宅デザインー
開催中～6/6

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

二級建築士 / 設計製図 受験対策講習会
実力養成コース 7/12～9/6
直前対策コース 8/23～9/6
模擬テストI・II 8/2、9/6
大阪府では、福祉のまちづくり条例を、社会情勢の変化から生じる課題に対応するため、一部改正します。(平成27年7月1日施行)
【改正のポイント】
①基準適合義務対象用途(自動車修理工場)の見直し
②共同住宅の基準適合義務対象規模の見直し
③公衆便所の乳幼児向け設備の適用規模の見直し
④共同住宅および寄宿舎等における介護ベッド等の設置規模の見直し
詳しくは、下記URLをご参照ください。
http://www.pref.osaka.lg.jp/kenshi_kikaku/fukushi_top/jourei_kaisei.html

試験合格だけではなく、有能で意識の高い建築士の養成を目標に、実務に直結した指導を行います。
■実力養成コース(模擬テスト2回含む)
日程(10日間)
7/12(日)、7/19(日)、7/20(祝)、7/26(日)、8/2(日)、8/9(日)、8/16(日)、8/23(日)、8/30(日)、9/6(日)
時間 9:15～16:45
定員 15名(申込先着順)
受講料 会員120,000円 一般140,000円

■直前対策コース(模擬テスト1回含む)
日程 8/23(日)、8/30(日)、9/6(日)
時間 9:15～16:45
定員 20名(申込先着順)
受講料 会員40,000円 一般45,000円
■模擬テストI・II
日程 I：8/2(日)、II：9/6(日)
時間 9:15～16:45
各回定員 25名(申込先着順)
各回受講料 会員13,000円 一般15,000円
会場 (各コース共)大阪府建築健保会館
最寄駅 地下鉄「谷町4丁目」下車

被災建築物の応急危険度判定養成講習会

6/17・8/19・10/21・12/16・2/17

本講習会は、地震等により被災した建築物の余震等による倒壊、部材の落下等から生じる二次災害を防止するため、被災建築物の応急危険度判定を行う大阪府被災建築物応急危険度判定士を養成する講習会です。
日程 ①6月17日(水)②8月19日(水)③10月21日(水)④12月16日(水)⑤平成28年2月17日(水)
時間 13:20～17:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
定員 各150名(定員になり次第締切)
受講料 無料
テキスト代 1,500円(被災建築物応急危険度判定マニュアル)

申込受付 一般財団法人大阪建築防災センター
※大阪建築防災センターのホームページ
http://www.okbc.or.jp/

本会への催し参加問合せ・申込先
大阪府建築士会事務局
〒540-0012 大阪市中央区谷町3-1-17
高田屋大手前ビル5階
地下鉄「谷町4丁目駅」1-B出口すぐ
TEL.06-6947-1961 FAX.06-6943-7103
メール info@aba-osakafu.or.jp
HP http://www.aba-osakafu.or.jp/

「中之島フェスティバルタワー」建築技術講習会

6/18 CPD4単位

「中之島フェスティバルタワー」は、音楽の殿堂と称された旧フェスティバルホールの変替舎に伴い、新たにフェスティバルホールと商業施設、オフィスを超高層ビルに内包した、大阪の新たなランドマークとなる魅力的な街です。伝統あるホールの音響特性を継承した高度な技術を始め、建設にあたって開発された中間層免震構造や河川水利用の冷暖房システムなどの斬新なアイデアや新技術、また現場の工夫・苦勞など、設計者、施工者自らの視点で語り「中之島フェスティバルタワー」の全貌をわかりやすく紹介します。

日時 6月18日(木) 13:30～17:30
会場 中之島フェスティバルタワー26階会議室
最寄駅 地下鉄「肥後橋駅」下車
内容 中之島フェスティバルタワーにおける建築計画、構造計画、設備計画、施工計画
定員 140名(定員に達し次第締切)
受講料 会員3,500円 一般5,500円
学生1,000円(テキスト代含)

「中之島フェスティバルタワー」建築技術講習会
6/18 CPD4単位

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27koushu.htm
問合せ (公財)建築技術教育普及センター近畿支部
Tel.06-6942-2214

設計・工事監理業務等の関係者を対象とした「実務者のための工事監理ガイドラインの手引き」の解説講習会を、昨年度に引き続き開催します。本手引きは、工事監理者の現場での具体的な確認内容や方法について、事例写真を用いてわかりやすく例示するとともに、工事監理の主旨や照合・確認の留意点を示しています。
日時 6月16日(火)及び7月14日(火)
11:05～16:20
定員 それぞれ40人(定員に達し次第締切)
会場 ドーンセンター
大阪市中央区大手前1-3-49
講習方式 DVDによる映像講習
受講料 テキスト代込の場合 7,560円(税込)
テキスト持参の場合 3,780円(税込)
申込 申込用紙を下記からダウンロードのうえ、講習の1週間前までに、近畿支部にFAX
http://192.168.1.20/kikaku_h27

PFI事業による市営住宅の整備

文 山口 耕三

1 はじめに

本市では、それぞれ異なる場所に立地する老朽化した五つの市営住宅を一つの場所に集約して建て替える（仮称）新佐竹台住宅集約建替事業をPFI法に基づく事業として取り組んでいます。

総合評価一般競争入札を行い、学識者・市等で構成される選定等委員会での審査を経て、平成二六年九月に特定事業契約を締結し、現在、事業者において、建替事業用地である旧大阪府住宅供給公社跡地で既存住棟の解体と建替住宅の設計に着手されています。

本稿では、民間活力を活用した建替事業について御紹介します。

2 事業を進めるにあたって

建替事業をPFI事業として実施するかどうかについては、PFI事業として実施することにより、当該事業が効率的かつ効果的に実施できることが基準となります。

PFI事業として実施する場合、価格点と提案点をどのように配分するかという点については、本市では、後述する計画地の特性やPFI事業は公共事業であり、公共事業である以上、自治体として、この事業にどのような思いを込めるのか、また、長期的な住民ニーズにかなう

事業として行うことが大前提になり、これらを踏まえた性能発注による民間事業者の優れた能力等をより引き出すため提案点を重視しました。

市営住宅を住宅セーフティネットとしての単なる箱物としてとらえるのではなく、まちを構成する要因として考えることが必要と考えています。

そのためには、市がどのような事業を望んでいるのか、具体的に示す要求水準書が重要になります。本市ではまちづくりに携わる各部署に意見照会やヒアリング等を行い要求水準書を作成しました。

なお、本事業では維持管理を含まないBT方式を採用しています。

これは、市営住宅の維持管理については、民間事業者のノウハウが発揮できる余地が少ないこと、また、市営住宅の全管理戸数が約一、二〇〇戸あり、建替事業により整備する戸数が二四〇戸であるため、スケールメリットを活かし、市営住宅全部を一括して管理することがより効率的であると判断したことによるものです。

3 計画地の特性について

建替事業地が位置する千里ニュータウンは、昭和三七年度のまちびらきから五〇年以上が経過し、その間、緑が育ち豊か

- ①ゆとりの空間を確保し、みどり豊かで潤いのある住宅景観をまもり育む
- ②地域の緑地・公園のみどり豊かな景観をまもり育む
- ③地域のみどり豊かで親しみやすい道路景観を育む
- ④地域のみどりに調和する洗練された施設景観を育む

という計画地における景観に対する基本方針を受け、計画案は、地域に溶け込んだまちなみを大切に、前面道路に植栽されている在来樹種を積極的に採用することで、周辺の豊かな自然環境を敷地内へ繋ぐとともに、住棟高さを抑えることで、街並み及び周辺建物と調和された提案となっています。また、建物デザインにおいても、周辺景観と調和した意匠とするなど地区幹線道路からの景観を考慮した質の高い外観を形成し、「地域らしさと潤いにあふれ、次代に誇れる美しいまちすいた」に沿ったものとなっています。環境に配慮したまちづくりの面では、CASBE（建築環境総合評価システ



写真1 現状



写真2 シンボルロードのイメージ図



鳥かん図

な緑と建物が調和した美しい景観は、長年にわたって育まれた千里ニュータウンの貴重な資産となっています。

しかしながら、計画地は、計画地外周部が擁壁・法面で囲まれ、歩道部との高低差が最大五m以上あることから、外周部が緑豊かな法面を形成する一方、その高低差がまちとの関わりを希薄にし、入居者以外には馴染みの薄い場所となっています。

また、高齢者の多い入居者にとっては、土地利用や住棟のバリアフリーが長年の課題となっていました。（写真1）

4 建替事業にあたっての市の思い

（何を大切に整備するのか）

本市では、千里ニュータウンの豊かな都市環境を育み、まちの活力を発展、継承するため、建替事業にあたり、

- ①高齢者や障がい者等の方々に配慮がなされ、安心で安全な暮らしが確保された住宅
- ②千里ニュータウンのまちに相応しい住宅（景観形成）
- ③環境負荷の低い良質な住宅（環境配慮のまちづくり）
- ④地域コミュニティの活性化に繋がる住宅（触れ合い、支えあい、みんなで考えるまちづくり）

を大きく広げた企画・設計が提案された

と私自身は考えています。また、まちの活力を発展・継承するためには、基盤整備（市営住宅の整備をここでは、基盤整備に含めています。）と併せてそこに暮らす人々が、自分たちが住む地域に愛着を感じ、できることから少しずつまちづくりを始めていくことも大切です。

計画案では、シンボルロードを中心として、緑や花を豊かに設け、「歩きたくなる道」を創出するとともに、計画地内には、入居者や周辺住民の方が利用できる共同花壇や菜園が提案されています。

こうした共同花壇や菜園は、そこに住み暮らす方に、人や花とふれあい、充実感や愛着を持ってまちに関わっていただけるきっかけづくりとして設けるもので、今後、必要に応じて、地域の活動団体等の御協力も得ながら、住民主体の花壇等の管理・運営をサポートし、ハード・ソフト一体の住まいづくりに発展させていきたいと考えています。

7 終わりに

PFI事業のメリットについては省略いたしますが、公共施設整備にPFIの導入は評価できるものと思います。しかしながら、その事業手法は「新たな」社会資本の整備に導入されており、既存ストックの有効活用が求められる今日、長寿命化のための補修などに、いかに民間事業者等の持つ技術等を活用していくの

の観点を重視した提案を民間事業者に求めました。

わが国で初めて本格的なニュータウンとして建設された千里ニュータウン地域での建替事業にあたっては、周辺と調和した空間形成、環境負荷に配慮した設計や地域コミュニティの形成などまちづくりに貢献することが必要と考えています。

5 計画案の特徴

計画案の最大の特徴は、計画地の特性を捉えて、「団地を周辺に開き、まちの価値を高める団地に転換する」点にあります。

地盤を切り下げ、団地中央の幅広い「シンボルロード」により、駅方面と後背の住宅地を繋ぐ地域生活動線を創出し、この動線を軸にして街角広場などの周辺に開かれた多様な公共空間をネットワークさせています。（写真2）

地盤を大胆に改変することは、大量の排出土が発生しますが、エレベーターを用いない自然なバリアフリー動線は、バリアフリーの解消のみならず、地域との関わりを強めた市営住宅として、出会い、賑わいを創出し、団地内外の人々の交流やコミュニティ活動に繋がっていくことが期待できます。

景観まちづくりの面では、

かが今後、重要になってくると思います。

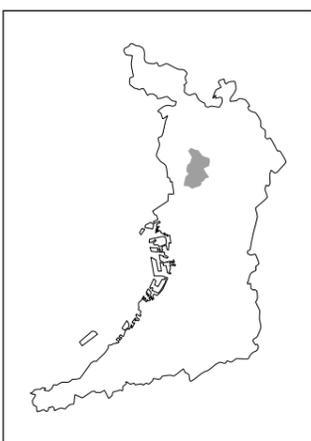
最後に、本市は、周辺の他都市と比較して分譲マンションに居住する世帯数及び割合が非常に高いことが大きな特徴になっており、建築士の方には、「マンション管理基礎セミナー」等において、区分所有者等の方にマンションの資産価値をできるだけ保全し適正な管理をしていただけるよう、大規模修繕等、建物の維持・管理に関する講演や住宅相談をしていただいております。

今般、国におかれては、空家等対策の推進に関する特別措置法の成立やマンションの建替えの円滑化等に関する法律が一部改正されるなど、専門技術知識を有する建築士の方々の御尽力をいただかなければならないことが多くあると思います。

今後とも良きパートナーシップのもと、共にまちづくりを進めていただければと考えています。

山口 耕三

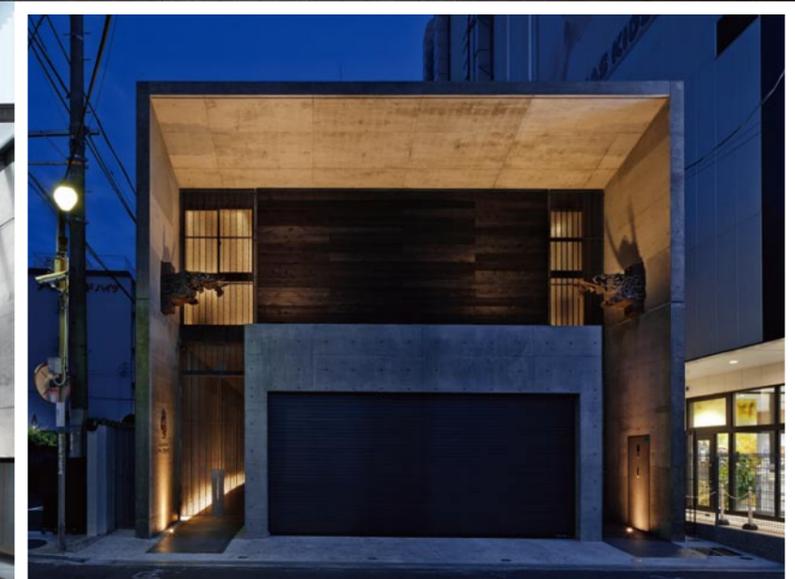
吹田市都市整備部住宅政策室長
一九五七年 豊中市生まれ
横浜国立大学経済学部
一九八二年 吹田市入庁
二〇一三年 四月より現職





敷地は生駒市内の狭い坂道に沿った住宅地の角地です。周りを住宅に囲まれているが、敷地向かいの石垣の上には桜の木々が立ち並んでいました。敷地に埋まっていた町の共同浄化槽を避け、既設の石積擁壁の安息角をクリアし、2台分の駐車場を確保すると、1階に取れるスペースが小さくなり、おのずと2階に大きなスペースが必要になりました。そこで、空間の主役を2階とし、借景の桜を存分に楽しめる家が良いと考えました。ルーバーで覆われたリビングは外からの視線を制御し、桜だけが見える様に調整しました。浮いた2階を支える柱を傾け、1階の駐車スペースを確保し建物の印象を軽くし、角地の建築として相応しい佇まいを得る事が出来ました。

所在地：奈良県生駒市
用途：専用住宅
竣工：2015.04
構造規模：木造
敷地面積：148.91㎡
建築面積：88.45㎡
延床面積：111.13㎡
写真：富田英次



再開発の進むあべのハルカスの南、400年以上の歴史を持つ西光寺も大きな境内の過半を商業施設とした上で、都市型の寺院として再建することとなった。再建に当たっては、周辺の喧騒から離れた静かな環境を確保するため、中庭型の空間構成とし敷地奥まで約35mの参道で本堂に至る。象鼻、獅子鼻、梵鐘、天女像、欄間、須弥壇などは西光寺に伝わる古いものを再配置した。裏庭は中庭から参道に登ってきた竜がトグルを巻くイメージ。2階庫裏も中庭に面するため、自然光と通風を得ながら、プライバシーやセキュリティが確保される。限られたコストの中、使用材料は質素な量産品ながら、一手間を加えて丁寧に仕上げている。

所在地：大阪市阿倍野区
用途：寺院・庫裏
竣工：2015.03
構造規模：RC造2階建
敷地面積：384.74㎡
建築面積：292.43㎡
延床面積：476.86㎡
写真：岡田 大次郎

4月号のメモリーハンティングを利用した被災地のデジタル・アーカイブに引き続き、今月は古写真を活用した「アナログ・アーカイブ」です。いずれも記憶と記録を結び未来に橋をかける行為であり、その土地を愛する人から話を聞くというスタンスには変わりありません。住みよいまち&絆研究所の奥野修さんにご紹介いただきます。

古写真活用プロジェクト

奥野 修

大阪生まれ。1990年滋賀総合研究所入所、県内のまちづくり計画策定等に携わる。滋賀県立大学地域づくり教育研究センターで近江環人地域再生学座や琵琶湖塾を担当後、近江環人仲間と2010年住みよいまち&絆研究所設立。古写真活用プロジェクトを進める。



これまでの活動をまとめたミニブックを発行。古写真とマップ付でツアーにも使える。



昭和初期に廃絶した布団太鼓と子ども達(すみよいまちトリップにて。北 正彰氏提供)

明日を照らす指標探し
 まちは市民の生活やなりわいの積み重ねで出来ている。地域や家庭に眠る古写真に光を当て、今を生きる人々が集まって思い出を語り合うことは、過去を懐かしむだけではない。今・ここ・自分を再確認すると共に、明日の生き方を少しでも照らしていこうとする座標探しに他ならない。このような取組みをまち絆研が行って早四年が経つ。

目標と手法

本プロジェクトの目標は三つある。①地域に残る古写真の破棄を食い止め、かつての地域を知ることが出来る資料を保存、②古写真に写る町並みや家並み、生活の記憶から「まちの形」を再認識、③地域の美しい町並みや自然素材を活用した暮らしづくり、歴史文化都市の大切さを共有、である。

その目標のために、古写真を集めること、ツアーや展示・サロン等の方法を模索し活用すること、デジタルアーカイブし誰もが使えるようにコモンス化(共有化)することを進めている。

広域文化圏エリアで初めて実施…上町台地タイムトリップ(二〇二二年)

最初の実施は、上町台地マイルドHOPPEゾーン協議会主催の「オープン台地」(上町台地の住み開きイベント)で企画した「上町台地タイムトリップ」古写真でめぐる上町台地の過去・現在」であった。これはまち絆研が二〇一〇年一月に「上町台地ツアーコンペティション Around 谷九」の企画コンペを行った際、高津宮(大阪府中央区。会場)の富くじにヒントを得た、くじで行き先となる

古写真を引き、その場所を探し、当時の風景に思いを馳せてもらうというミニツアーである。古写真は関西大学大阪都市遺産研究センター所蔵の村上陽氏(郷土史家)のコレクションから提供いただき、二年目から古写真募集と展示を追加、以後継続して開催している。(二年目からは高津宮と都住創中大江峯風庵の二箇所で開催)



上町台地タイムトリップ (2014.11.29.30 高津宮)

区エリア(街道単位)で実施…東成タイムトリップ(二〇二二年)

翌年、東成区の暗越奈良街道筋を盛り上げようとするイベント「ひがしなり街道玉手箱」の実行委員会に企画参加。新道ロード商店街の空き店舗を再生し高齢者の支援活動を行う新道パトリの協力を得て、旧街道筋で東成区単位の古写真を集め、展示やフリーツアーと、古写真に写る風景から人々



東成タイムトリップ (2014.11.2 パトリ)

とではない。これまでも全国各地で行われてきているし、また行政や学校の設立記念や地域の出来事を記した写真集など出版物も数多く出ている。私たちの活動は、古写真に写る時代の真の姿を読み取り、その時代を生きた人々の記憶を集め紡ぎ、次の時代の生き方を模索するために活用することである。「地道な活動です」ね」とよく言われるが、そこから見えできたこともある。

①昭和三〇年代は時代を知る(開く)扉

大阪は歴史の深い都市である。慶長年間に大阪城が築かれ城下町を形成して以降、徳川による都市再興、明治維新後の近代化、大正による都市拡大、昭和の空襲による焦土化、その後の復興と高度成長など紆余曲折を経て現在に至っている。そのうち昭和三〇年代は戦後の復興から高度成長に至る過程を知る上で重要な年代であり、その時代の建物や人々の記憶がまだ多く残り、時代を知る扉(てがかり)としての生きた時間軸である。この時代を知ることが身近な歴史に触れることであり、それ以前のまちの歴史に関心を持つことにも繋がり、過去の時代をイメージしやすい。

②変るまちの景観・空間と変らない場所の力

住吉や東成など大阪の郊外地は、戦後急速に市街化が進むが、それより前は農村集落と田畑、ため池、街道が走るのどかな風景が広がっていた。古写真にもその名残の田畑やため池などの風景が残っており、現在と比較することで、まちの空間や景観は絶えず変化し、田畑は住宅地になり、水辺が埋め立てられ道や公園になり、神社や仏閣が場所を移転させられ、「機能するまち」に作り変えられて

の生活の記憶・まちの記憶を開き取るノート作りを初めて行った。

神社周辺エリアで実施…すみよいまちトリップ(二〇二三年)

住吉大社周辺地区HOPPEゾーン協議会主催の「住吉の今昔写真展」(区役所に協力させて頂いたのがきっかけで、二〇一三年一〇月開催の「すみよいまち」イベント(住吉大社を中心とした市民文化祭り)の中で「すみよいまちトリップ」を同協議会と共催で開催した。住吉大社周辺の古写真の収集・展示と、古写真サロン(古写真をスクリーンに拡大投影し、参加者が思い出を語り合う)を初めて実施。住吉大社周辺に限定した古写真サロンの取組みは、地域の歴史を掘り起し、参加者の思い出を披露し合うことで、自分自身が体験したかのような瞬間だった。

小エリアに集中した古写真収集とサロンの実施は、その後、高津宮(上述)本殿復興の奉祝祭、円周寺(大阪府中央区)での親鸞聖人七百回大遠忌法要など、歴史のひとコマの記憶を芋づる式に引出すことに繋がった。



すみよいまちトリップ (2014.10.12.)

きたことが分かる。まちの形が変わっても、一方で変わらぬものもある。それは由緒ある地名や伝承、浄瑠璃や歌舞伎といった物語の舞台や地形等、その場所の存在である。それらは時代と共に、碑みたいなものに置き換えられてビル化・公園化したりするが、場所の存在は連綿として語り継がれ、また未来にかけても活用されるものでないかと思われる。大阪にはこのような場所が沢山残っている。

③人の力・コミュニティの力

古写真に写る人々の姿を見ると、表情がイキイキとしている気がする。当時は写真は貴重でせっかくなので機会なので笑顔というところもあるだろうが、地域の盆踊りや地区運動会、お祭りなど、地域の人々と一緒に記念撮影する機会が多かったのではないだろうか。昭和三〇年代を振り返って、ある年配の方が「まだしんどい時代だった」としみじみ語って頂いたのを覚えているが、それでも戦後の復興が進み、地域が助け合って自治を形成し、東京オリンピックピックや大阪万博など時代を駆け抜けていった観がある。人々の共助の力、コミュニティの底力が、困難な時代を乗り越えてきた原動力だったと思われる。

少しずつ広がる輪を大切に

古写真に光を当て思い出を集めることで、一人の記憶がまちの記憶になる。個人の所蔵だった古写真もまちの財産になる。地域の数だけ歴史があるし、それらを知り関わり次世代へ伝えることで、今ここに生きている自分を確認することができる。活用の仕方はまだこれからであるが、そういう身近な活動の輪を少しずつでも広げられたらと願っている。

地道な活動から見えてきたこと

古写真を集め、展示をして、当時に思いを馳せるという活動自体は、珍しいこ



明治地域思い出の古写真展 (2015.3.22 明治会館)

建築士賠償責任 補償制度 (けんばい)

平成26年改定

新たな2つの補償

補償内容の拡大の声に応じて誕生した、新しい「けんばい」

これまでの「けんばい」では、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」のない場合には、原則として補償されませんでした。例えば、構造計算ミスにより建築物が建築基準法に達していなかった場合に、建築物に外形的かつ物理的な「滅失・破損」が発生していなければ保険の対象外でした。

平成26年4月より、「法令基準未達補償」および「構造基準未達補償」の2つの補償を追加し、「滅失・破損」が発生しない場合でも一定の基準を満たさなかったために生じる損害に対応できるように改定することに致しました。

改定のイメージ

起設計する賠償業務に	滅失・破損あり	建築設備が著しく機能を発揮できない場合の補償 (給排水設備、電気設備、空調設備、住宅の遮音性能)	従来のけんばい	↑ 本年度の標準セットアップ ↓ オプション
	滅失・破損なし		法令基準未達補償 New ※補償対象外とすることも可能です。	
		構造基準未達補償 New	オプション	

新たに追加された2つの補償

●法令基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「所定の建築基準関連法令における基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

●構造基準未達補償

建築物の外形的かつ物理的な滅失または破損の有無にかかわらず、「建築基準法第20条1、2、3号建築物の構造基準」を満たさないことについての損害賠償責任を補償します。

※建築士賠償責任補償制度(けんばい)の改定についてご紹介したものです。保険の内容は建築士賠償責任補償制度のパンフレットをご覧ください。

建築士会

設計・監理リスクに備えた 建築士会会員のための補償制度

第8回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

公益社団法人大阪府建築士会では本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 古谷 誠章 (早稲田大学教授)



1955年 東京都生まれ
1978年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
1980年 早稲田大学大学院修了
1986～1987年 文化庁芸術家在外研修員としてマリオ・ボッタ事務所在籍
1994年～ 八木佐千子とスタジオナスカ (現NASCA) 共同設立
1994年～ 早稲田大学理工学部助教授
1997年～ 早稲田大学教授
本年度より建築人審査委員長

■ 表彰 (設計者に対して)

建築人賞 (賞状と記念盾)
建築人奨励賞 (賞状)
※建築主・施工者には感謝状授与

■ 第8回 対象作品

「建築人」2015年1月号から2015年12月号まで Gallery に掲載された建築作品
※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法 (2段階審査・予定)

一次審査 建築人誌面、公開プレゼンテーションにより選定
二次審査 現地確認により選定

■ 受賞発表

建築人 2016年7月号誌面 (予定)

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ!」
ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 | 2015

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円
カラー 1ページ 10万円
モノクロ 2ページ 10万円
モノクロ 1ページ 5万円

※モノクロページは住宅に限ります。

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会「建築人」 Gallery 建築作品掲載係まで。

公益社団法人 日本建築士会連合会

〒108-0014 東京都港区芝5-26-20 建築会館 5階 TEL:03-3456-3273 FAX:03-3456-2067
http://www.kenchikushikai.or.jp/



60th with 60 Design

Design more freely and more flexibly

多彩なクリエイターがデザインした水栓レバーハンドルが60種類。自分好みにカスタマイズできる、という新しい発想の水栓です。

もっと自由にフレキシブルに。

SANEIは水まわりから広がるインテリアの可能性をご提案致します。

理事会報告

文責 本会事務局
日時 四月二十二日(水)十六時〜十七時三十分
場所 本会会議室

出席 理事二八名、監事二名、他一二名

(一) 二六年度収支決算報告について
本年度の決算について、当期一般正味財産増減額は五、四二六、三六八円となり、一般正味財産期首残高一六、六一五、九三八円から同期末残高を二二、〇四二、三〇六円と報告して承認された。

本年度の事業収支は九四七万円の黒字であり、退職金積立に繰り入れた。
二六年度の寄附金五八〇万円は、特定資産に繰入れ、新たに尾亀清四郎百寿基金を創設した。収入では大阪府立病院機構との業務委託事業の継続や、建築物の耐震評価業務の好調が顕著であった。また定期講習や建賠保険も前年度を若干上回った。

大阪府の指導により会費の会計処理を変更し、公益事業会計と法人会計に各五〇%振り分けた。公益事業の公一(公三)の三区分のいずれも当期収支差引はマイナスとなり、収益事業の収益の五〇%を公益事業に振り分けてもおお公益事業はマイナスとなることから、公益社団法人としての収支相償の規定を満足したことを報告して承認された。

(二) 二六年度監査報告について
監事より、大阪府からの二五年度決算報告の会費振分方法に関する指摘を受けて本年度は適正に対応した財務諸表であること、また会員各位からの多大なご寄附を頂戴したこと、事業では耐震評価業務が大きく寄与したことなどを挙げて、本年度は適正に執行されたことが報告され、平成二六年度財務諸表等の会計関係書類を含めて承認した。

建築相談(二〇一四年の建築相談室)

編・構成 橋本頼幸

二六年度の「建築相談室」での相談件数をまとめます。建築相談室では電話相談に加えて、面談相談、現地相談も受け付けております。ここ五年分の変化をととにも集計をしたのが図1です。

平成二四年度に増加した相談件数は、今年も増加し六百件を超えました。面接相談や現地相談などの有料の相談については、共に大幅に増え、予約が合計七六件(前年度五〇件)となりました。ただし、この件数は予約であり、実績値は面接が一七件、現地が四一件でした。面接相談は、予約後に約半数がキャンセルになっていきます。現地相談は、担当者からの連絡確認でキャンセルになることもあります。

昨年四月から相談が平日月金の毎日になりました。曜日別集計を図2に示します。祝日の関係で月曜日が少ないのですが、一日平均三二件と最も多く、水曜日・金曜日と続きます。従前の相談曜日の名残があるのかもしれませんが、とはいえず、火曜日・木曜日が極端に少ないわけではありませぬ。電話がかからない日は年間で一九日、月に二二日ありました。

相談者の属性は、一般が最も多いですが、建築士(二七)件、施工者(二七)件、不動産・デベロッパー業者(一〇)件と増える傾向にあります(カッコ内前年度)。また、相談物件も所有戸建て・分譲マンションを除くと非所有戸建て(一九)件、賃貸マンション(四二)件、非住宅(二二)件、土地(一〇)件となっており、昨年度より相談の内容が多様化していることが伺えます。

当建築士会の電話相談が、単に一般消費者の相談や問い合わせにとどまらず、建築士や

施工者などの建物供給側の相談や、所有住宅に限らない相談まで広がる傾向にあり、今後ますます社会全体に必要とされる存在になるものと考えられます。

本報告の詳細な分析は大阪府建築士会・建築相談室のホームページに公開しております。是非ご覧ください。

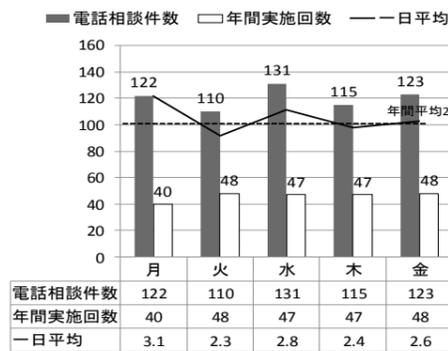


図2 平成26年度の相談内容

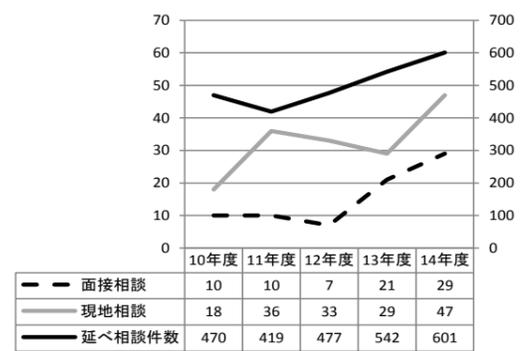


図1 過去5年の相談件数の推移

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

大阪府中央区伏見町の角地に威風堂々と構える近代ビルが鎮座している。その歴史的建造物の名前は「芝川ビル」。見るものを圧倒する存在感を今持つて示している。

このビルを建てた芝川又四郎氏は、当初祖父から引き継いだ唐物商(欧米品の輸入業)を営んでいたが、大きく変わる時代の空気を感じ取り、いち早く土地経営という安定した資産運用業へ転換。既存木造建物を、当時としては珍しい耐震耐火性能に優れた鉄筋コンクリート造に建替える。基本計画構造設計は澁谷五郎氏、意匠設計を本間乙彦氏が担当し、施工を竹中工務店が請負った。規模は地下二階地上四階建てで昭和二年(一九二七年)に竣工した。

建物の外装は、南米マヤ・インカを思わせる装飾を纏っており、古代遺跡を彷彿とさせる。外壁の竜山石が時代を経て感じえる風合いを醸し出している。竣工当時、芝川氏は教育に関心を抱き、「芝蘭社家政学園」という花嫁学校として利用していた。現在は様々なテナントが入居しており、このビルに華やかな賑わいをもたらしている。

建築人 5 2015

- 監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報委員会
- 編集 建築情報委員会『建築人』編集部
- 編集人代表 米井 寛 飯田英二
編集人 荒木公樹 黒川祐樹
河合哲夫 中江 哲
筑波幸一郎 牧野隆義
橋本頼幸 母倉政美
- 事務局 山本茂樹
印刷 中和印刷紙器株式会社



ダイビル本館・中之島四季の丘 日建設計

歴史的建築を現代に生きるビルとして再生

中之島3丁目共同開発第Ⅲ期工事にあたるダイビル本館の建替え計画。日本のテナントオフィスの先駆けとなった旧ダイビル本館（渡辺節氏設計1925年）は、質実なデザインの中にも要所に多様な装飾を施したロマネスク様式で人々に長く親しまれてきた。老朽化に伴う当ビルの建替えにあたり、単なる意匠の継承だけでなく、その90年近い歴史が刻み込まれた材料を再利用することで、景観に歴史の厚みを与えつつ、この新時代に生きる最先端のビルとして再生することを目指した。

意匠継承にあたっては、旧建物素材の入念な調査・性能試験等により再利用の可能性を十分に検証した上で、15万個のレンガや華麗な装飾を持つ石柱等を一つ一つ丁寧に取外し、新しい躯体の上に再取付けを行い、時と共に深みを増した強い質感を再現した。また、内装床材タイル等の素材の再利用・型取りによる装飾の再現など、丁寧な手仕事で旧エントランスホールを含む壮麗な意匠も復元した。

その重厚な復元空間に対して、新旧の場面の転換・対比を意識し、新しく付加した高層オフィスエリアでは、日射遮蔽効果のある石材方立付サッシュやガラス張りのEVシャフト等により、専有部・共用部にも自然光が溢れ、眺望が広がる開放的な空間とした。

壮麗な石材レリーフで彩られた足元周りには十分なオープンスペースを確保したことで、テラスを持つ店舗が通りに顔を出し、街に新たな活気と賑わいを生んでいる。

撮影：東出写真事務所 第34回大阪都市景観建築賞大阪市長賞受賞作品

■プロフィール

川島 克也(かわしま かつや)
1981年 日建設計入社
現在 常務執行役員設計部門統括
勝山 太郎(かつやま たろう)
1990年 日建設計入社
現在 設計部門副代表兼設計部長
中島上(なかじま のぼる)
1996年 日建設計入社
現在 設計部門設計主管

■建物データ

設 計：(株)日建設計
施 工：(株)大林組
所 在 地：大阪市北区中之島3-6-32
主要用途：事務所、物販店舗、飲食店舗、
自動車車庫、地域冷暖房施設
竣 工：2013年2月
構造規模：S造、RC造、SRC造
地下2階・地上22階
敷地面積：21,089.32㎡(街区全体)
建築面積：4,572.02㎡
延床面積：53,030.40㎡

